

学際的ワークショップ 『精神分析の知のリンクにむけて』

第七回「21世紀のエディプス—われわれはまだこの概念を必要とするのか?—」

エディプスコンプレクスとは何か—この問いは、性、欲望、世代、つまりは人間とは何かという問いである。フロイトは、彼の父の死去後、母親への性的欲望、父への嫉妬を自覚し、中期の『自我とエス』で、エディプスコンプレクスの「沈殿」が自我を構成すると定式化した。晩年の『精神分析概論』でも、「精神分析の発見が仮にこのコンプレクスの発見だけだとしても、人間の偉大な発見の列に並べられる」と、この概念の普遍性を確信していた。しかし、フロイト以降の分析家は、この名称を残しながらも、フロイトの構想を別様に展開させた。例えば、クラインは、父への嫉妬よりも、エディプス期より早期の授乳と離乳を巡る分離の体験が引き起こす空想に着目し、この概念を刷新した。またラカンは、フロイトのエディプス図式は、「使い物にならず、最初から作り直さなくてはならない」と明言し、シニフィアンの論理と去勢コンプレクスを軸とした、新たなエディプスコンプレクス論を構築した。

このように現代の精神分析では、エディプスコンプレクスが意味する内容は、各学派で異なっており、同じ用語を使って議論することが難しくなっている。だが、より深刻に考えるべきなのは、このコンプレクスが、現在もなお「人間の心の核」になっているかということである。グローバル資本主義、AIやバイオテクノロジーの飛躍的進歩、少子高齢化による家族構成の激変、ITによるヴァーチャル・コミュニケーションの浸透など、21世紀に生きる人間は、フロイトの時代とはおおよそ異なった社会の中で生きている。21世紀の人間の心的基盤は、今もなおエディプス的だろうか—これが今回の討議のテーマである。

本ワークショップでは、「心的インフラ」という斬新なアイデアを展開している飛谷渉氏、「女性論におけるエディプス」を現代的な視点で再考している西見奈子氏、「ラカンにおけるエディプスと性別化」を構想中の原和之氏をお招きして、21世紀のエディプスについて討論する。

日 時：10月2日（日）13：00～17：00

場 所：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター

方 法：ハイブリッド形式（コロナ感染状況によって変更あり）

参加対象：精神分析に関心をもつ方なら、どなたでも参加できます。

発 表 者：（導入）十川幸司「エディプスの彷徨」

：飛谷渉（大阪教育大学）

：西見奈子（京都大学）

：原和之（東京大学）

司 会、討論者：藤山直樹（個人開業）、十川幸司（個人開業）

参 加 費：3000 円

定 員：150 名

申し込み方法：2022年9月30日（金）までに小寺記念精神分析研究財団事務局に e-mail でお申し込み下さい（kodera.kt@nifty.com）。表題は「学際的ワークショップ申し込み」とし、メール本文に、氏名、住所、ご所属とご身分（学生、教員、会社員など）お書き下さい。返信メールにて、お振込みのご案内をさせていただきます。

主催 小寺記念精神分析研究財団